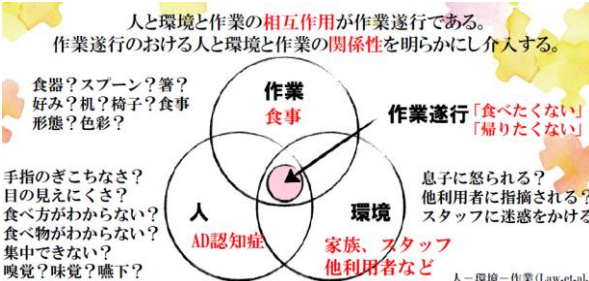


## 富山県医労連認知症セミナー開催



### 人・作業・環境の 総合作用や関係性を 考慮したケアを

11月19日、富山県医労連は、講師に認知症ケア専門士の難波忠明さんをお呼びして認知症セミナーを開催しました。介護職18人（ケアマネ・ヘルパー・デイ・施設・病棟）と看護職10人を含む31人が集まりました。難波氏は、認知症ケアは、人、作業、環境の3つの関係性を考慮し、なぜ、そしてどうすればいいかをみんなで考えていく事が重要とのべられました。P2の詩（作者不明のスコットランドの老人病院棟から見つけた詩）も紹介されました。

グループワークでは、CASE①「トイレくらい」一人でできると思っているがうまくできず本人もスタッフも周囲の利用者もイライラして落ち着かない人へのアプローチ、CASE②「介助を拒否する易怒性、暴力、興奮状態の人へのアプローチ」を話し合いました。本人の不安や苦痛・楽しい事や快と感ずること何か・介護への要望は何かを出しあう事で、関係性の障害・課題や問題分析と介入の方法ポイントが見えてきました。

参加者から以下のような感想が出されました。「いつもの認知症講習と違い実際の話だったのでわかりやすかった」



難波忠明さん

「グループワークで本人の思いを知り、本人との関係性を良くすることでケアがスムーズにいく事を知りました。本人の思いに沿った対応を行っていきたい」「いろんなケースがあり、答えが無いのが介護です。コミュニケーションを取り関係性を作るのは大変ですが、これが一歩だと思うので活かしていきたい」

### 早期に専門家のケアがあることで 今の状態を維持しながら一日 一日を豊かに暮らすことが出来る

認知症の人と家族の顧問の勝田登志子さんの認知症カフェや本人や家族が生き生きとされている



勝田登志子さん

お話から医療・介護に携わる私たちが学ぶことが多くありました。また勝田さんは以下のように話されました「国は介護からの自立と言います。また、現在富山市が、「介護からの卒業」と言う言葉を使い始めました。認知症の人の自立ってなんでしょうか。早期に専門家のケアがあることで、今の状態を維持しながら、一日一日を豊かに暮らすことが出来る。その事が大事なのではないでしょうか。国のやっている地域包括ケアは、私たちのねがう地域包括ケアと違う・・・」

## 「私を見てちょうだい」

著者不明

ロナルド・タールステン寄稿（スコットランドのある老人病院棟から見つけた詩）

看護婦さん、いったい何を見ているの？私の何を見ているの？

あなたがたに見える私は ただの不機嫌な顔をしたぼけ老人でしょうね  
ほんやりとうつろな目をして  
つぎに何したらいいかもわからない老人でしょうね  
ぼろぼろこぼしながら食べものを口に運び  
「ちゃんと食べて！」と大声で言われて  
返事もしない老人でしょうね

看護婦さんのしてくれることには知らん顔をして  
年がら年中、靴や靴下の片方をさがしている老人でしょうね

お風呂や食事を嫌がってみても  
どうせ他にすることもないからって  
結局はいいなりになる老人でしょうね

どう、この通りでしょう？これがあなたがたに見える私でしょう？  
さあ、看護婦さん よおく目を開けて、私を見てちょうだい

ここでじっと座って 命令されるままに動き 言われるままに食べる私が  
本当はどういう人間なのか教えてあげるから

私はね、10の歳には 両親や兄弟の愛に囲まれた子どもだった  
娘盛りの16には 愛する人に巡り会える日を夢見る乙女だった  
20歳で花嫁となり心弾ませて「この人に一生を捧げます」と誓ったのよ  
25には母親となって子どもたちのために心安らく家庭を築こうとした  
そう、60の頃には小さな孫たちが、膝の上に座ってくれた

もう私は年老いてしまった  
時の流れは情け容赦なく 年寄りをおろかに見せ  
身体をぼろぼろにし 美しさも精気もどこかへおいやってしまう  
そして、かつての柔らかな心は 石のように閉ざされてしまった

でもこの朽ちかけた肉体の奥には 若い娘がいまだに住んでいるの

この苦しみに満ちた胸は今一度過ぎ去った日々を思い出しては  
喜びにはずみ、悲しみにふさぐ

こうして、人生をいつくしみながら もう一度生き直しているの  
駆け足で通り過ぎていった あっという間の年月を思うと  
人生のはかなさをつくづく思い知らされる・・・

そうなの、だから看護婦さん  
よおく目を開けて、私を見てちょうだい  
ここにいるのは ただの不機嫌なぼけ老人じゃない

もっと近くに寄って 本当の私を見てちょうだい